

「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」の改定に向けた第1テーマの検討部会

- 1 日時 令和元年9月9日（月） 午後4時～6時10分
- 2 場所 職員会館かもがわ 大多目的室
- 3 出席者 委員6名（欠席：田川委員）
事務局（別府文化市民局長，猪田地域自治推進室長，樋掛地域コミュニティ・北部山間振興部長，大東地域づくり推進課長，川瀬市民活動支援課長，他）

4 概要

(1) 京都市の地域コミュニティに関する状況等について

事務局から資料3を基に地域コミュニティ活性化推進部会について，資料4を基に地域団体とNPO法人の連携促進事業について説明

◎ 山本部長

資料について質問やお気づきの点があればいただきたい。

地域団体とNPO法人の連携促進事業についてだが，結果をとりまとめた冊子はあるが，地域でどのような活動をして，その結果どのような地域になっていったのかが明確になっていない。

○ 森委員

単身世帯が増加している原因を教えてください。

● 事務局

高齢単身世帯の増加や学生が多いのが一因ではないか。学生には京都市に転入するよう勧めているので結果として単身世帯が増加しているのではないか。

○ 角谷委員

ワンルームマンションが増加しているようなことはあるのか。そうであれば3，4人の世帯向けのマンションを見つけにくかったり高かったりするようなことがあるのではないかと思う。

○ 谷口委員

地域の人に手助けしてほしいことは「特にない」が多いが，困ったことがあっても隣人を頼ることは少なくなった。近所の人とはゴミ出しの時に話すくらいである。地藏盆に参加するのは子どもだけ。区民体育祭に応援に来る人も少ない。地域で頼りにするのは「友人」というのもラインやメール等最近のツールを利用しているように思う。

◎ 山本部長

若い世代には共稼ぎが多く，帰宅するのも午後7時か8時で，地域に目を向ける時間は全くないと思う。どうしても高齢者が地域を守っていかなければならないが，独居の高齢者がものすごく増えている。働き方を考える必要がある。

○ 森委員

共働きは増えている。日常的に昼間、父親や母親が家にいる世帯は減っているが、コミュニティ活動が活発な学区もある。地蔵盆や体育祭など日曜日に開催するイベントの中で交流が生まれたりする。そうした中で関係が深まるのではないかと。

◎ 山本部長

少しでも地域の皆さんが仲良くし、地域のことは地域で守るという精神はどこかにあると思う。それを引き出す方法はあるか。

○ 角谷委員

区民体育祭や地蔵盆の後に飲み会をすると、そういうところには若い人たちも参加する。“飲みニケーション”があると友だち関係が深まるような感じがする。

○ 谷口委員

区民体育祭の後に町内で飲み会をするが、毎年居酒屋さんでしていたのを今年はあるお家のガレージを貸してもらえることから、誰でも参加できるような持ち寄りの会をする予定である。

(2) 第1テーマ「だれもが自治会・町内会活動に参加しやすくなる方策」の検討

◎ 山本部長

第1テーマ「だれもが自治会・町内会活動に参加しやすくなる方策」について、2つのグループで、ワークショップ形式の意見交換をしていただきたい。

ア グループAで出た主な意見

(グループAでは、現状や課題を出していただきながら、検討の方向性に関する意見が出てきた。そこから、将来イメージ・理想につながる意見が出た。)

- ・新しい家が建って転入者が入ってくると、地域住民とのコミュニケーションがなかなか取れない。暮らし方や世代間などいろいろなギャップがあり、大きな壁になっている。このようなギャップがあるので、声を掛けても遠慮して断られるケースもある。そういった部分を何とか乗り越えていかなければならない。
- ・検討の方向性としては、コミュニケーションの取り方を考える必要がある。また、地域のことを知ってもらう機会を設ける。そのためには隣近所の人たちと“友だち”になるという視点も大事である。
- ・子どもは塾やクラブが忙しく個の付き合いが中心となっている状況にある。子ども、学校、PTA、保護者会といった同年代のつながりから地域にうまくつないでいくことが大事である。
- ・マンションでは、誰が住んでいるのか分からないというケースはあるが、災害時などの対処に不

安がある。災害が起きた場合を想定して、地域とつながるメリットを感じてもらえれば、自治会活動に参加してもらえらるきっかけになると思う。

- ・日常的に地域にいない若い世代は、地域に目を向ける時間がないということもあると思うので、働き方を考えることも大事である。
- ・役員のなり手不足に関しては、活動を続けること、PRすることも大事だが、情報を分かりやすく伝えることが重要である。ポイント制度などメリットがあると目を向けてもらえるのではないかな。分かりやすく使いやすい町内会アプリのような形で、地域のことに触れてもらい、ハードルを下げてもらうのも一案である。
- ・自治会・町内会加入率が横ばいというのは、これだけ時代が変わってきている中ですごいと思う。旧態依然としている部分はあるとしても、地蔵盆や体育祭にしても昔から受け継がれている魅力がある。継続していることは大事なので、魅力や楽しさをもっとアピールすることが必要である。

イ グループBで出た主な意見

(グループBでは、現状・課題を中心に意見が出た。その中から取組のアイデア的なものが出てきた。)

- ・自治会・町内会は、地域の課題や地域で得られる利益をみんなで共有しながら、応分に負担するのが前提。しかしながら、そもそも地域の課題を感じていない、あるいは特にないという人が結構多いのではないかな。だから“お互いさま”がなかなか通じないという時代背景になってきている。
- ・5年未満の居住者には特に地域課題が分からないのではないかな。
- ・地域で感じる課題は人によって異なったりするので、生活の中で自治会・町内会の必要性を感じる機会がなかなかない。活動していない方を活動してもらうようにするのは難しい。
- ・議論の方向性としては、活動したい人が実際にやりやすくなるような活性化策を検討する必要がある。
- ・単身高齢者が増加している。町内会費は払うが、役はしたくないという高齢者が増え、回覧板も自分を抜かして次の人に回してほしいと言われる高齢者もいる。また、運動会に参加できる高齢者も限られてきている。アイデアとしては、例えば、今後は高齢者向けの運動会のようなものにしていく、また、地蔵盆は子どものためのイベントではあるが、高齢化が進んでいるので、大人だけの世帯も参加しやすい地蔵盆にするなども一案である。
- ・自身は、マンション住まいで、自治会・町内会には加入しているが、回覧板が回ってこない。回覧板を回さないマンションが都心部に増えているのではないかな。マンション住民は、地域に頼るというよりも、管理会社やサービスで解決できる面がある。また、マンションの場合は、2拠点居住など普段は居住していない方もいるので、回覧板が回っていかないこともあり、掲示板の方が合理的である。
- ・町内会運営では、役員のなり手が少ない。役員になると地域のゴミの収集場所をどこにするかの仲裁を求められるときがある。更に、町内会長になると収集場所が自分の家の前に変更になる

といったこともある。また、組長が敬老の祝い金を渡した、渡していないということでもめたこともあったので、今後高齢化が進むとこのようなケースも増えてくるのではないか。

- ・子育てを終了した世代は地域から離れていったりするので、子どもが大きくなっても町内会との接点が必要ではないかということで、女性会を設立されたところもある。
- ・地域活動が活発な地域は災害対応がしっかりしているが、その逆はなかなか困難である。災害を地域活動や自治会・町内会を考える一つのきっかけにはできるが、それによって実際に住民が自治会をつくるといった行動に移すところまで持っていくのは、なかなか難しい。

● 事務局

2つのグループから発表していただいたが、御質問や御意見はあるか。なければ第1テーマの検討は以上とさせていただく。

(3) その他（事務連絡など）

- 事務局から部会の日程調整についての報告

(閉会)